

第1回飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 会議録

会議の名称及び会議の回	飯田市中学生期の文化芸術・スポーツ活動連携協議会 本部会
開催日時	令和6年5月22日（水） 午後7時00分～8時45分
開催場所	飯田市役所3階 C311-313 会議室
出席委員氏名	別紙名簿のとおり アドバイザー 南信教育事務所 原指導主事、内田指導主事 筑波大学体育スポーツ局 稲垣先生
欠席委員氏名	小澤委員、桑原委員、木田委員、森本委員
傍聴者	なし
出席事務局職員氏名	熊谷教育長、秦野教育次長、北澤学校教育専門幹、後藤生涯学習・スポーツ課長、本島社会教育係長、氏原スポーツ振興係長、松原主事、北村主事、賜、塩澤部活動地域移行支援コーディネーター
会議の概要	以下のとおり

1 熊谷教育長挨拶

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。昨年のべ9回の協議会で貴重なご意見をいただき、拠点校部活動の具体化に向けてできるところから進めてまいりました。今年度は人事異動等によりまして新たに8名の皆様方に委員となつていただき、本当にありがとうございます。昨年までの協議を元にし、これまでの取組をご理解いただきつつ、さらにより良いアイデアを積み重ねてまいりたいと思っております。

本日も昨年に続いてアドバイザーとして筑波大学の体育スポーツ局稲垣先生に、飯田事務所から社会教育担当の内田さん、そしてスポーツ担当の原さんをお願いしております。大所高所からのご指導いただければと思います。よろしくお願いいたします。

長野県全体では、令和8年度を目途に休日の学校部活動を地域クラブ活動へ移行するということを目指して県の方の協議会を立ち上げておられます。今年3月にガイドラインが示されております。大きな方向としては、これまでのものと同じと理解をしているところでございます。

一昨日には教育委員会連絡協議会という会がございまして、県の方から、観光課長をはじめ関係課の方5名の皆さん方からガイドライン等についてご説明いただきました。特に小さな町村のコーディネーター役を務めるということで県に配置された方からもご挨拶をいただいて、相談してくださいというようなお話がございました。課長さんの方からこの部活動の地域移行は、知事も本気ですという強い宣言をされまして、大変心強いと理解をしました。長野県から地域移行について、どれぐらいのどういう形の支援をいただけるのかというところはまだわからない部分はあるかもしれませんが、必要な支援はこれから国にも求めていかなければいけないかなと思っております。

ご出席いただいている皆さんのお力をいただきながら子供たちやその地域の実情、スポーツ・文化団体の皆さん方の現状を踏まえた取組を一步ずつ進めていくことが1番近いかなと考えております。ぜひ飯田市の子供たちのために、スポーツ・文化活動の環境を充実するために、それぞれの立場でご意見をいただき、夢や理想に近づけるように進めてまいりたいと考えております。今後ともお世話になります。よろしくお願いいたします。

2 飯田市中学校部活動地域移行に係る連絡協議議会についての説明（事務局）

※設置要項について事務局より説明、新たな副座長の承認、今年度の協議会日程等

3 国、県の動向（南信教育事務所飯田事務所 原指導主事）

（説明要旨）

- ・移行の目的「地域において子供たちが生涯にわたってスポーツ、文化芸術に親しめる環境を構築する。教員の働き方改革を推進し、学校教育の質の向上を図る」
- ・目指す姿「学校部活動の新たな地域クラブ活動への移行により、活動種目の選択肢が増えるとともに、持続可能な環境活動が整い、全ての生徒がニーズに応じた多様な活動を安定的に行うこと」を目指す。
- ・休日活動については、ニーズに応じて段階的に拡充。県の役割として生徒数により単独での地域クラブ活動が困難な市町村について、近隣の市町村との連携を速やかに図りながら進められるように、助言、協力等により支援をしていく。
- ・新たな地域クラブ活動については、持続可能な環境を構築できるよう、指導者の確保に協力していく。
- ・県の方針、令和8年度末を目途に、休日の学校部活動の地域クラブ活動への移行完了を目指す。
- ・指導者の確保の難しさを痛感。丁寧にやっていかなければいけない。
- ・地域や保護者等の理解が進んでいない。説明をしているつもりになっていて、なかなか伝わっていない現状がある。
- ・コーディネーターを拡充し、複数市町との連携、新たな地域クラブの設立に向けた支援を強化。保健厚生課に統括コーディネーター（吉田氏）を新たに配置。
- ・実証事業の成果と課題の共有ということで、実証事業も一緒にやっている。新しいクラブの立ち上げ支援をしていく。
- ・上から下ろすものではなく、各自治体、地域ごとの山積している課題に寄り添い、何をしたらよいのかを大事にして進めていく。
- ・飯田の取組を読ませていただき、具体的な活動は進んでいる。おそらく、そこで見えてくる課題を一緒に考えて、共有しながら進めていけるように頑張っていきたい。

4 今年度の飯田市の取組について（事務局）

※昨年度までの取組の確認とR6年度の飯田市の取組についての説明（別紙）

取組の目的、方向性の確認と今年度の取組内容のスケジュール

今年度末までに推進計画の作成、スケジュールの提示

5 スポーツ部会と文化部会での意見交換

① 中学生の文化芸術・スポーツ活動の現状と課題

（社会教育関係団体へのアンケート結果を基に、今後の地域クラブ活動への可能性について考える）

- ・令和6年度に社会教育関係団体に登録申請を行う団体に対して行った今後の中学生との活動についてアンケートの結果説明（別紙参照）

検討課題として3点

- ア 活動目的や活動方針をしっかり伝えていく仕組みを作る必要がある。
- イ 中学生のニーズに応えられるものであるかどうか、見極めていく必要がある。
- ウ 生徒、保護者、特に小学生保護者への理解促進。

② 飯田地域クラブ連携ネットワーク(仮称)の役割、運営主体について(別紙)

(連携ネットワークが担うべき事柄は何か。それを誰が担っていくか等)

- ・地域クラブ活動として運営できているという、総合型地域スポーツクラブや民間クラブ、社教団体等については、飯田市公認地域クラブという形にしていく。クラブ運営が十分できないというところに、スポーツ関係は、スポーツ協会、各競技団体が、文化関係は、文化協会、各文化団体が運営の支援をしていく。これを第1段階と考えている。
- ・スポーツ協会、各競技団体、文化協会、各文化団体には市から、コーディネーター等が関わり、一緒になって考えるような仕組みも考えている。
- ・全てが公認地域クラブとなり、それぞれが自主運営していくことを想定している。これが第2段階。公認の条件については検討していくが、規約を持っている、地域の指導者が複数いる、受益者負担として運営体制が整っている等を想定している。
- ・段階1から段階2に進む期間は、今後検討し、少なくとも数年は運営の支援が必要になってくると考えている。
- ・R8年度までには、具体的に動きながら、より良いものにしていきたいと考えている。問題になるところはどこか、どう乗り越えていくか、ぜひ建設的で前向きなご意見をいただきたい。

【グループ1】

- ・活動が参加者のニーズに合致したものになるか。高齢者が多い団体では、中学生が参加した場合上手く対応できるか。
- ・保護者としては、子どものやりたいことを応援してやる気持ちが強いはず。子どものやりたい環境をできるだけ用意してやれば、たとえその場所が遠くても多くの親は送迎をと思う。自分の子どもは、バレー部に入っているが、何が何でも勝ちたいというのではなく、皆と楽しみたいという気持ちでいる。勝ちたいという生徒と意識の違いを埋めるのに苦労している。楽しむだけのクラブを選択できる環境ができるとありがたい。
- ・これについてもこの方向でよいだろうが・・・多くの課題が存在している。
- ・保護者への理解がまだまだ十分ではない。特に小学生の保護者への説明が今後必要になってくる。
- ・指導者を確保することが大きな課題になってくる。保護者の中にも関わりたい、関わってもよいと思っている人がいるかもしれない。学校の中にもやりたい先生方がいるはず。そうした人たちに運営も担ってもらえるようにしていけるとよい。皆が少しずつ負担を背負っていける仕組みにしたい。
- ・平日と休日に指導者が異なることになるため難しい。休日はやらなくてもよいとい

う選択肢を認めていくために指導者の意識改革も必要。

【グループ2】

- ・活動場所にはなりうる⇒全員一致
- ・中学生の多様なニーズが満たせてよいのではないか。
- ・活動場所としていく場合に課題となることとして、会場が足りなくなるのではないか。問題が起こった時の責任は、全て社会教育団体になるのか？
- ・団体が多くある。中学生が、遊びに来てくれれば良いという認識でいる団体で中学生の上手になりたいというウェルビーイングを満たすことができるのか。

※運営主体については全員了解

※進めていくうえでの課題

- ・保護者への理解がまだまだ十分ではない。特に、小学生は兄弟がいなければ今の中学校の生活がわからない。保護者も部活動は当然あるものと思っている人もいる。小学校の意識として部活動の地域クラブへの移行についてピーンと来ていない。

※公認クラブの条件、公認クラブになるうえでのメリット

- ・会の規則（子供の育成ということがちゃんと規定されている）
- ・受益者負担（もちろんクラブによって会費が違うのも当たり前が良い）
- ・資料2にあるとおりスポーツ協会が管理事務局をしていくとなった時に、いつまで管理事務局をするのか。令和8年度までなのか？そこが決まっていくなかなか団体にも下ろせない。
- ・各公認クラブが全市型のように運営までできるようにならないといけない。そこにはやはり、教育委員会が入って運営の方法を伝えてほしい。
- ・事務局の役割に指導者の派遣とある。現在のスポーツ協会ではまだまだ足りない。地域や学校の先生も一緒にしないと、なかなか移行は難しいのではないか。

【グループ3】

- ・何回か説明会を開催しているが、保護者や地域の理解が十分ではない。部活動がそのままの形で地域に移行するという意識が強い。教員も十分ではない。そのため、保護者運営のクラブが多くなっている。
- ・中体連の大会のあり方が課題。中体連がある限り、意識はなかなか変わらない。練習試合を土日にやりたいが、部活ができなくなると、生徒の経験が不足しケガが増える、との顧問の声がある。このままでは、生徒の体験格差や教員の働き方格差が大きくなるのではないか。
- ・公認クラブの認定条件を明確にする必要がある。特に練習時間の適正化やレベルの見極めが必要。
- ・休日はクラブ、平日は部活動ということに混乱がある。総時間数や指導者を考えると、平日も休日と合わせて地域移行を考えても良いのではないか。
- ・生徒にとっては、活動場所がより身近な地域にあると良い。生徒のレベルやニーズに応じた活動の場の整理が必要。（身近な場所では体験や楽しみレベル、競技力向上は全市レベルでの活動とする 等）

【グループ4】

- ・社会教育関係団体の参加者の属性として高齢者が多い。中学生の受け皿として真に機能するのかどうか疑問がある。
- ・スポーツに関しては、競技団体が地域移行を推進していく力を持っていると思う。文化は年配の方が多く、指導的な能力も含めて丸投げすることは難しいと思う。
- ・11月、12月の体験活動はもう少し早めに取り組んでみてはどうか。今までも冬季ジブンチャレンジ期間の体験として取り組んできたので、R8に向けた取組としてだんだんと期間を長くしていったらどうかという意味。
- ・中学校の部活動を地域へ移行したとしても、高校の部活動は現状維持であり、一人の子供の育ちという視点でみた時の連続性のなさを危惧する。

【グループ5】

- ・土日に活動している社教団体の中で、OKだった活動・ジャンルがあるのか。それは中学生がやってみたいと思えるジャンルか。
- ・まずは「いろいろ経験したい」と思ってもらえることが大事だ。
- ・吹奏楽は、大会がなくなれば自由になる。
- ・民間の塾とか教室とかクラブとかへの影響が出ることも考慮する必要がある。
- ・中学生は体験すれば、その後判断できる。
- ・「体験会」のように、ワンフロアでいろいろな体験ができるとよい。
- ・宣伝(広報チラシ)があれば体験に行けると思う。
- ・ジブンチャレンジは、いい機会。安全を担保する適切さ。
- ・運営の事務は、大変。「一緒に楽しむ」よりハードルが高い。
- ・指導者の研修内容に安全を担保・運営の事務を入れる。連携ネットワークが大事。
- ・ジブンチャレンジで一緒にやった大人が生き生きしていた。自分が楽しくあれば子どもたちでやっていける。
- ・分かりやすいビジョンである。ゴールを明確に示している。社教団体もいい。課題は、試合へどう参加するか。平日も含めた活動の在り方。平日の活動と休日の活動の相関は。地域の活動の改革として週2～3日、休日1日。満足しない子は、民間へ所属することを。その質の違いを明確に示して。飯田の強みを生かしてほしい。

【グループ6】

- ・指導者としてはできても事務的なことはできない。吹奏楽部や合唱部のような「大会・コンクール」への申し込み、運営は別の人にやってもらいたい。
- ・公認クラブについて、どうすれば「公認」になるのか。まずは、安全管理ではないかと思うが、これを誰が認めるのか。
- ・地域全体の文化活動推進に努力したい。

☆全体共有

(委員) クラブ運営イメージの二つの段階は非常にいい仕組みだと思う。それとはちょっ

と別の視点で、現状でいくとどうしても 地域クラブでそのまま今の部活動が移行するというイメージが大きい。今までとは違うというのを理解してもらい努力を今後も続けなければいけない。地域や保護者の中で専門技術をもっている方がどんどん教える。また人にどんどん公開していくっていうようなものが、今でも少し見えてきているっていうものもある。令和8年度、中体連が休日に開催になるので、教員が休日は従事しないことになる、多分運営ができない。あとは、練習試合を休日にやらしてほしい場合がどうなるか。休日の部活動をやらなくなった時にクラブで出ただけであればよいが、まだクラブになっていないとすると困る。教員には、部活動は平日の4日しかないという意識を今後も伝え続けていく必要がある。

(委員) 1つ目は運営面や事務的なことは、今後誰がどう受け取ってもらえるのか。2つ目は、最終的に公認クラブは、誰がどうなれば公認となるのか。1番大事なことは、やはり安全のために研修も必要だろうし、複数の大人の目が必要になってくる。3つ目は、生徒の認識が、例えば吹奏楽だとコンクール、大会、スポーツ系では余計そうだが、そういうものは勝つことに意義があると思う。ウェルビーイングという言葉に集約されるように、地域全体の向上に繋がったというところを大事にするんだという認識は、今はあまり生徒や保護者にはない。そういう認識をどうやって持ってもらえるか。この3点が課題になる。

6 アドバイザーからのお話

【内田指導主事（南信教育事務所飯田事務所）】

私は文化芸術の方へお話を聞かせていただいた。昨年度の冬季ジブン・チャレンジ期間を受けて、今年度の2回を行うにあたっては、子供たちの安全面を担保するのが大人側の責任。指導の適切さに課題が見えてくる。運営についても、一緒に楽しむということに喜びを感じている皆さんにとっては少しハードルが高いというご意見がありました。

そこで重要になってくるのが、この飯田地域クラブ連携ネットワークの存在だと思います。指導者研修、6月6日に稲垣先生にお世話になることからスタートするこの研修です。ネットワークのあり方について、教育事務所も一緒になって考えさせていただくことが、子供たちのより良い活動を担保することに繋がっていく。それは、昨年度のジブン・チャレンジに関わった大人の方が生き生きしていた。子供たちと一緒に活動をすることで生き甲斐のようなものを感じていたという言葉と、子供たちのアンケートは非常に良いものでした。お互いにとって良いものを作り出せているので、課題を乗り越えていけると思っています。子供たちはきっと本当にやりたいことを見つけたら、安心安全な場さえあれば自分たちでやっていく。そんなようなところを支えられる部活の地域移行でありたい。

私もお役に立てるところがあれば、また一緒にやらせていただきたいと感じた本日の会でした。本日は本当にありがとうございました。

【稲垣先生（筑波大学）】

休日の移行について、分かりやすいビジョンや方針を示されているなど感じております。飯田市では、このような連絡協議会で、行政、そして関係団体、また学校の関係者も含めて、連携や意思決定の組織がしっかりある。なかなか他の自治体ですとできてないと

ころがあります。非常に素晴らしい進め方をされているなと感じております。

令和8年度という、まずは目標として具体的な数値を示すということは非常に重要。勇気のいる決断かとは思いますが、やはり具体的なものを示すからこそ、いろんなディスカッションが起こり、地域の方、また保護者の方が当事者意識を持っていただけたところもあると思います。そこは非常に素晴らしい。

飯田市の特徴として、社会教育関係団体の数が非常に多い。アンケートを見ても非常に前向きに子供たちの受け入れを検討してくださっているデータで見まして、これを生かさない手はないと思います。地域に基盤があるという強みをぜひ生かしていただけたら素晴らしい環境になるのではないかなと感じさせていただきました。

一方で課題として、ビジョンや方針を実現していく上で、乗り越えなければいけない細々したものは多々あるとは思いますが、先ほどのディスカッションで聞こえたところとして、試合はどうするのだということがありました。休日だけ地域の活動になって、平日は部活動をやっていく中で、地域の人間として試合に出ていくのか。例えば茨城県ですと、中体連の大会を平日に開催しています。そういう場合は、どちらとして出ていくのかとか、地域のクラブの方が平日もそこで対応できるのか。どの地域でも休日を進めていく中で試合をどういう形でやっていくのかってところが非常に議論になっているところかと思えます。そういったところも見据えて検討をいただけたら、よりスムーズな地域以降になるのではないかと考えております。

少し細かい話になりますが、例えば中体連に今後地域で出るとなった時に、例えば行政の中で県大会また全国大会へ出た時に支援されていた予算であったり、学校、地域によっては例えばPTAだったり後援会みたいなどころからそういった支援がある場合、この地域移行に伴って、そういったものが振替されるのか。つくば市でも今まさにそういった議論をしています。

試合の課題もあるので、平日も含めた地域での活動の形というものをやはりどこかの段階で明確に示していく必要があるのかなと考えております。なかなかこれは、国が明確なものを出さないのが難しいというところだと私自身も感じております。現場の感覚からすると、土日だけ地域で平日に部活が残るというその状況こそ混乱を招く。いろんな課題が出てくると思います。

例えばですけど、つくば市で考えているものとして、一応部活動の改革、地域活動の改革と分けて二軸で考えています。先ほどお話の中で、この地域移行は今ある部活動をそのまま地域でやるということではないということは何度も強調されていたと思います。まさにその通りだと思っています。今本当に週5でやっているようなものを地域で担えるのか、受け皿があるか。なかなか難しいかと思えます。

中学生年代の7割くらいが週5で、またはそれ以上スポーツをしています。何か1つの活動を継続しているというのは、世界中探してもどこにもない。ある意味少し異常。もちろん子供たちにはいろんな学びがあると思うが、逆の見方をすると本当に多様な経験を奪っている可能性もあるということを、我々大人は少し認識する必要がある。海外のスポーツの専門家からも指摘されたりもしています。

そういった観点から、活動の効率化や削減をしていくところも必要になってきます。例えばですけど、平日は週2回～3回、休日1回の3回～4回ぐらいの活動というものをス

タンダードに置いて、もっとやりたい子はもう民間でしっかりやりましょうと。サッカーですと山雅さんとかそういったところでやるとか、そういった形でもいい。オフ期間のようなものは、世界では当たり前に取り入れられています。飯田市の場合は、全国に先駆けていち早く取り組まれているのは非常に好事例だと思っています。その中でジブン・チャレンジという形で、いろんな活動を体験できるような環境を地域全体で作っています。非常にメッセージの強い、素晴らしい取組をされていると思います。ある意味、アピールポイントとしていく。地元の方は、もうそれが当たり前で、なかなかそのすごさに子供たちや保護者は気づいていないのかもしれない。全国的には非常に素晴らしい事例であるのでその辺りをもう少しアピールしながら進めていっていただけるといいのかなと思います。

【閉会の挨拶 副座長】

本日はどうもお疲れ様でした。スポーツと文化に別れてから、皆さんの積極的な意見の声飛び交っていて、よかったです。引き続き今年度もよろしくお願いします。

以上で第1回連携協議会を終わりにします。ありがとうございました。